れんげそう
令和７年４月 30 日
福生第五小学校
学校通信第 573 号

こいのぼりに願いを込めて

校長 泉田 巧人

正面玄関前の凛々しく座る五月人形
（コミュニティ･スクール委員の方が子どもたちの健やかな成長を願って飾ってくれました。）

新年度が始まり早１か月が経ちました。爽やかな風が吹く校庭には、昨年度の第5学年（現第6学年）が設置した巣箱にスズメ等の野鳥も巣を作り、見ているだけで優しい気持ちになれます。子どもたちは新しい環境にも慣れ、一人一人が頑張って学習等に取り組んでいます。

４月には、第２学年の「羽村市動物公園遠足」、第6学年の「オーケストラ鑑賞教室」と校外での行事も始まり、子どもたちはしっかり活動しています。

５月には、全校の「春の野鳥観察会」、第１学年の「中央公園遠足」、第3学年の「町探検」と様々な校外での学習があります。そして、大きな行事として「運動会」が行われます。保護者の皆様方には、様々な行事への御協力をどうぞお願いいたします。

さて先日、春の野鳥観察会の事前学習で、スーパー愛鳥博士の子どもたちと一緒に多摩川に行ってきました。その際に、本校と様々な連携を行っているわらべつくし保育園の園庭に目を向けると、たくさんのこいのぼりが風に吹かれ気持ち良さそうに泳いでいました。「もうすぐこどもの日なんだな。」と、日本の伝統・文化の良さをしみじみと感じ心が和みました。こどもの日に「こいのぼり」をあげるのは、江戸時代にさかのぼります。武家の風習が一般の家にも広がり、様々形を変え「こいのぼり」を上げるようになったそうです。「こいのぼり」は、中国の故事「登竜門」が由来とされています。中国の黄河に竜門と呼ばれる激しい急流があり、竜門を上ることができた鯉は龍になれるという言い伝えがあり、これを「登竜門」といいます。このように鯉は逆境や苦難を乗り越えて立身出世する縁起の良いものとされてきました。

「こいのぼり」の由来を見ていると、ふと「水は低きに流れ、人は易きに流れる」という言葉を思い浮かべました。水は高いところから低いところに流れるため、低きに流れるのは自然です。流れに任せてなるようになることが自然の流れでもあるように思います。人も困難に立ち向かうより安易な方向に流される方が楽であり、自然なようにも思います。しかし子どもたちには、自分の夢や希望をかなえ自己実現を果たすためには、本当にそれでよいのかを常に考えてほしいと思います。もし自分の目標が高く、川上にあるのであれば、鯉のように急流を上るとはいわずとも、低きに流され諦めるのではなく、少しずつであっても確実に目標に向かい進む努力ができる子どもに育つことを願っています。それには、保護者の皆様の子どもへの寄り添い、認め、励ましが不可欠です。大空を清らかに泳ぐこいのぼりに願いを込めて、子どもたちの健やかな成長を共に支えていくことを、どうぞお願い申し上げます。